



本日はよくお参り下さいました

あじさいの見ごろの季節ですね。皆さまお元気ですか。先日、中学二年生の藤井聡太さんがプロ棋士デビュー後無敗の史上初の29連勝を達成し、日本中が、この偉業を伝え、大いに盛り上がりました。次は7月2日(日)に対局があるそうです。30連勝是非達成してほしいものです。驚いたのは対局時間の長さです。朝10時から11時間後の夜9時を過ぎても終わらず、将棋の対局はここまで長いものなの



土用の丑は7月25日(火)

かと、大変驚きました。さて、もうすぐ夏がやってきます。今年も暑くなりそうです。今年の土用の丑の日は25日です。うなぎを食べるのが楽しみな方もいらっしゃるかと思えます。おいしいものを食べて、体力をつけて、暑い夏を乗り切りたいものです。今月も皆さまのご多幸を、お祈り申し上げます。権禰宜 道子

7月

1日・15日 月次祭(つきなみさい) 皇室の弥栄と国家安泰、氏子崇敬者並に社会の幸福と平和を祈ります。

2日 半夏生(はんげしょう)

半夏生は梅雨の終期にあたり、農家の人たちはこの日までには田植えをすませる習慣がありました。半夏は、「からすびしゃく」というサトイモ科の多年草の毒草のことで、六月頃、緑色をおびた鞘ができます。半夏生とは、それが生える時期ということになります。その球茎は、生薬や漢方薬として、用いられます。



半夏生(はんげしょう)

7日 小暑(しょうしょ)

この日から暑気に入り、暑中見舞いも出されるようになる。夏至を境にして、日足は徐々につまってくるが、実際には実感されないようだ。小暑の前後に梅雨が明け、夏の太陽が照り付けて、暑さは日増しに加わってくる。梅雨明け前の、いわゆる集中豪雨に見舞われることも多いので注意を要します。

17日 海の日 海の記念日だった日が、平成七年から国民の祝日に加えられました。

23日 大暑(たいしょ) 夏至から一か月後、夏の季節の最後の24節気。一年中で最も気温の高い酷暑の季節です。

天神さまの豆知識

―七夕(たなばた)―

七月七日は七夕です。願い事を記した短冊を竹に吊るして立てる光景を至る所で見る事ができます。また、彦星と織姫が一年に一度天の川を渡って逢瀬を楽しむ日としても知られています。

その歴史は古く八世紀に成立した和歌集『万葉集』巻第十の中に

「織女の今夜会ひなば常のごと
おりのめ こよい

明日を隔てて年は長けむ」

という歌が収録されており、すでに奈良時代から七夕の伝説が知られていたことがわかります。そんな七夕の起源は、星に裁縫や書道の上達を祈るとい中国の「きっこうでん」というお祭りにあります。これは、七月七日の夕方に、酒、料理、果物、瓜を供え、金、銀、真鍮(しんちゅう)の針を用意し、月に向かって五色の糸を針に通すというものです。天



の川に、白や五色の光が見えれば願いが叶い、蜘蛛が瓜の上に網を張れば裁縫が上達するといわれました。日本でも、七五五年に宮中で「きっこうでん」が行われたのを起源に、宮中行事として定着したのです。当初は貴族の行事でしたが、次第に武家はもちろんのこと、庶民の間でも短冊に願い事を書いて竹に吊るすという、今におなじ

今月の言葉

『地下百尺の心』

河井継之助「神道伝授」より

基礎のない人間は弱い。地下百尺(三十メートル)に例えるほど深くしっかりと根付いたところに、確かな心の寄り所があれば、何事にも動じない強さが得られる。確かな基礎を身に着ければ、しっかりとした土台が築けて心の寄り所となる。人間の基礎とは性根のよい強い心、知恵・知識、根気ある努力から作られる。地下百尺に及ぶほど深く確かな基礎であれば、どんな状況にも揺るがず、柔軟に対応することができる。

参考文献『神道のことば』武光誠監修 河出書房発行



みの行事が広まりました。江戸時代には、幕府によってご節句のひとつに定められ、とくに寺子屋に通う子供たちが手習いの上達を望んだそうです。

また、七夕は盆行事の一部として習合し、盆に祖霊を迎える前に川でみそぎをし、心身を祓い清める意図があると言われていきます。言わば七夕は、盆行事の準備を始めるという側面があったとみられます。七夕飾りの竹を川に流すところがあるのも、こういった理由によるものです。参考『神道と

しきたり事典』茂木貞純監修PHP研究所発行